

ひと・ネットワーク¹²³

「障害者の自立と可能性を求めて」

障害者地域作業所
「アスタPC」
所長 岡村道夫



当作業所は、パソコンを主体とした作業所で、平成10年に開所いたしました。

私自身中途障害で車いすを使用する者ですが、就職にまでいかない肢体に障害を持つ者の活動の場が大変少なく思い開所しました。

現在は利用者24名スタッフ5名で、20数台のパソコンを仕事、勉強、コミュニケーションの道具として活動しています。

当作業所では、障害を持つ者にとってパソコンは、『可能性を秘めた箱』として捉えています。なぜならパソコンは、障害によって低下してしまった身体機能を補ったり、秘めている『能力』を引き出したり、高めたりすると考えるからです。様々なパソコンのテクノロジーを組み合わせることによって、今まで不可能だったことが可能になり、困難なことが容易になります。

また、インターネットを活用することによって、いろいろな情報が得られ、逆に情報を提供することもできます。その得た情報が出る勇気やきっかけになり社会参加へとつながります。E-mailを用いれば、友達や家族はもちろん、知り合うことのできなかった人たちとの交流を通して様々な経験を積むこともできます。

さらには、障害を持つ者にとってのパソコンは、上記の可能性を発展させ、『就労』にも結びつきます。自分の力で得られる収入の喜び、など、就労は自立の一步になります。

現在では、企業に就職できる人や障害を持つ者自身がパソコンボランティアとして活動する人も増えてきています。

パソコンを最大限に利用することによって、『障害者として』ではなく、『人間として』当たり前前に社会で暮らすノーマライゼーションの社会が可能になると考えます。

「店舗を広げることは同時に、責任と権限を今まで以上に第一線の社員に委譲することになります。社員一人ひとりが一国一城の主として自社を背負い、それぞれの地域性に合ったサービスをどう構築していくかが期待されるとことです。また、昨年八月には「マ

していくことによって、会社全体の活性化を図っています」と言葉が続けます。

アイデアの生かされる環境を作る

今後ヤマト運輸では、現在全国にある約三千店舗を五千店舗にし、より地域に密着したサービスを展開していこうと考えています。

Venture Dream (ワイベンチャードリーム) という社内ベンチャー制度を設立し、従来の事業にこだわらない柔軟で斬新な社員のアイデアを、社をあげて支援してこうという取り組みが始まっています。『毛急便』に始まり、弊社では様々なサービスを打ち出してきましました。その成功体験に依存してしまふことがないよう、個々の社員が常に0ベースで業務を見直せる環境作りをすること。そして、日々の業務を固定的に捉えないで、いつもお客様の便利を考え、新しい発想や方法を提案して社員姿勢を、様々な形で奨励していく組織作りが大切だと思います」と結んでくださいました。(企画課)

今月のまとめ

今回のテーマである社員の持つ知識や発想を企業全体で共有し、活用していこうという取り組みは、職員個々の「長年の経験」や「勘」等を必要としているのに、掘り起こしと活用が上手くできずにいる、福祉業界にこそ必要な考え方ではないでしょうか。

この手法には、いい面がたくさんあります。一つは、現場に一番近い職員の提案だからこそ、利用者が望んでいるサービスが実現しやすいという点。そして、人からの指示ではなく、自分達で発想した提案には、責任を持って積極的に取り組むと言う点です。

一人の失敗も成功も全員で共有し、次のサービスに活用して

く。これが、「ナレッジマネジメント」です。ナレッジとは、データや情報、知識、知恵等を包括したものと考えていただければ良いかと思えます。ナレッジから価値あるものを抽出し、皆で共有していく。そして、新たなナレッジが創造しやすくなる環境を、どう構築するかがポイントだと思います。

より効率的に、効果的なサービスを提供していく一つの手法としては是非一度、このナレッジマネジメントを理解し、現場に活用していただきたいと思えます。

しかし、この手法の本来の目的を忘れ単なる仕組みとして捉えると、必ず失敗するという点も、最後に申し添えておきます。

(「今月のまとめ」協力) 株式会社原経営総合センター 福祉経営指導一部
TEL 03-3289-0867 URL: <http://www.kawahara-group.co.jp/>